2014（平成26）年度

東日本大震災復興支援
とどけよう スポーツの力を東北へ!

文部科学省国庫補助事業

日・韓・中ジュニア交流競技会

Japan-Korea-China Junior Sports Exchange Meet

公益財団法人
日本体育協会

住所：〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
TEL：03-3481-2480（国際課）
URL：http://www.japan-sports.or.jp/

はじめに

日･韓･中ジュニア交流競技会は、アジア近隣諸国との青少年スポーツ交流を促進し、これを通じて相互理解を深め、競技力向上に資するため、1993（平成5）年より日本･韓国･中国による持ち回りで開催されています。

参加選手は、日本･韓国･中国と開催地選抜の4チームからなり、高校生世代では珍しい複数競技による国際的な競技会として発展してきました。

日本選手団は、各競技とも国内競技大会で好成績を収めている高校生世代のトップレベルの選手を中心として編成され、同年代の韓国･中国選手団と毎年熱戦を繰り広げています。

この競技会に参加した選手が、後にオリンピックやその他の国際競技大会で活躍している実例もあり、日本の競技力向上に大きな役割を果たしています。

競技会の前身

【日･韓高校交歓競技会】

1968（昭和43）年から1976（昭和51）年まで､日本（東京）と韓国（ソウル）で交互に開催されました。1977（昭和52）年以後は、両国の各競技団体間で競技別に交流を続けてきました。

【日･韓ジュニア交流競技会】

日･韓高校交歓競技会を引き継ぐ形で、1981年（昭和56年）に第1回競技会が東京都と神奈川県で開催されました。以来、日韓交互に開催し、1992年（平成4年）まで行われました。

【日･中ジュニア交流競技会】

1982（昭和57）年に第1回競技会が千葉県で開催されました。以後、日中交互に開催し、1992（平成4）年までに通算11回実施されました。

開催経緯

1992（平成4）年8月に韓国･中国間の国交が正式に樹立されたことを受けて、両国と交流競技会を開催していた日本は、韓国･中国との3カ国によるジュニア交流競技会の開催を提案しました。同年12月、3ヵ国の代表（日本体育協会、大韓体育会、中華全国体育総会）が東京にて会議を行い、開催に合意しました。

このジュニア交流競技会は、3ヵ国の持ち回りで開催することになり、翌1993（平成5）年に第1回日･韓･中ジュニア交流競技会が福島県で開催されました。

第1回から第6回競技会までの実施競技は9競技で、日本と韓国はいずれの競技会も全ての競技に参加していました。中国は第5回競技会まで必ずしも全ての競技に参加していたわけではなく、第6回競技会より全ての競技に参加することとなりました。

広島県にて開催された第7回競技会からは、バレーボールを加えた全10競技となりました。また、「2002年日中韓国民交流年」記念事業として熊本県で開催された第10回競技会からは、ウエイトリフティング競技を加えた全11競技で実施されています。

第22回競技会開催概要

〈2014（平成26）年度　実施概要〉

事業名	開催地	実施期日
第22回日･韓･中ジュニア交流競技会	岩手県	8月23日(土) ～ 8月29日(金)　7日間

【対象】　選手は、所属する選手団の国籍を有する満18歳以下の高校生とする。

〈実施競技及び人数構成〉

競技	陸上競技	サッカー	テニス	バレーボール	バスケットボール	ウエイトリフティング	ハンドボール	ソフトテニス	卓球	バドミントン	ラグビーフットボール	本部役員	合計
人数	25	21	11	29	29	20	33	15	13	15	25	8	244

2015（平成27）年 第23回競技会開催地：韓国
2016（平成28）年 第24回競技会開催地：中国･浙江省

日・韓・中ジュニア交流競技会　過去競技会開催一覧

回　数	開催年	開催国	開催期日	参加選手団及び人数		実施競技
第１回	1993年 平成５年	日　本 福　島　県	８月25日～ ８月30日	日　本　182 韓　国　184 合計　647	中　国　79 福　島　県　202	＜９競技＞ 1. 陸上競技（男女） 2. サッカー（男） 3. テニス（男女） 4. バスケットボール（男女） 5. ハンドボール（男女） 6. ソフトテニス（男女） 7. 卓球（男女） 8. バドミントン（男女） 9. ラグビーフットボール（男）
第２回	1994年 平成６年	韓　国 済　州　道	８月25日～ ８月30日	日　本　182 韓　国　185 合計　636	中　国　103 済　州　道　166	
第３回	1995年 平成７年	中　国 唐　山　市	８月25日～ ８月30日	日　本　183 韓　国　186 近隣諸国　154 合計　811	中　国　195 唐　山　市　93	
第４回	1996年 平成８年	日　本 長　崎　県	８月25日～ ８月30日	日　本　183 韓　国　191 合計　722	中　国　142 長　崎　県　206	
第５回	1997年 平成９年	韓　国 忠　州　市	８月25日～ ８月30日	日　本　181 韓　国　185 合計　617	中　国　82 忠清北道　169	
第６回	1998年 平成10年	中　国 石家庄市	８月25日～ ８月30日	日　本　194 韓　国　199 合計　702	中　国　201 河　北　省　108	
第７回	1999年 平成11年	日　本 広　島　県	８月25日～ ８月30日	日　本　213 韓　国　214 合計　880	中　国　215 広　島　県　238	＜10競技＞※1 上記９競技 ＋ バレーボール（男女）
第８回	2000年 平成12年	韓　国 全　州　市	８月23日～ ８月29日※2	日　本　211 韓　国　216 合計　821	中　国　201 全羅北道　193	
第９回	2001年 平成13年	中　国 瀋　陽　市	８月23日～ ８月29日	日　本　230 韓　国　214 合計　810	中　国　216 瀋　陽　市　150	
第10回	2002年 平成14年	日　本 熊　本　県	８月23日～ ８月29日	日　本　230 韓　国　230 合計　935	中　国　226 熊　本　県　249	＜11競技＞※3 上記10競技 ＋ ウエイトリフティング（男女）
第11回	2003年 平成15年	韓　国 済　州　道	８月23日～ ８月29日	日　本　236 韓　国　243 合計　932	中　国　245 済　州　道　208	
第12回	2004年 平成16年	中　国 長　春　市	８月23日～ ８月29日	日　本　239 韓　国　234 合計　868	中　国　242 長　春　市　153	
第13回	2005年 平成17年	日　本 北　海　道	８月23日～ ８月29日	日　本　241 韓　国　239 合計　1012	中　国　242 北　海　道　290	
第14回	2006年 平成18年	韓　国 大邱広域市	８月23日～ ８月29日	日　本　252 韓　国　235 合計　942	中　国　249 大　邱　市　206	
第15回	2007年 平成19年	中　国 桂　林　市	８月23日～ ８月29日	日　本　252 韓　国　240 合計　893	中　国　246 広西桂林　155	
第16回	2008年 平成20年	日　本 千　葉　県	８月23日～ ８月29日	日　本　254 韓　国　238 合計　963	中　国　240 千　葉　県　231	
第17回	2009年 平成21年	韓　国 木　浦　市	８月23日～ ８月29日	日　本　246 韓　国　239 合計　952	中　国　247 全羅南道　220	
第18回	2010年 平成22年	中　国 鄭　州　市	８月23日～ ８月29日	日　本　257 韓　国　238 合計　900	中　国　251 河南鄭州　154	
第19回	2011年 平成23年	日　本 愛　知　県	８月22日～ ８月28日	日　本　261 韓　国　247 合計　982	中　国　239 愛　知　県　235	
第20回	2012年 平成24年	韓　国 光州広域市	８月23日～ ８月29日	日　本　254 韓　国　238 合計　963	中　国　253 光　州　市　218	
第21回	2013年 平成25年	中　国 濰　坊　市	８月23日～ ８月29日	日　本　257 韓　国　244 合計　984	中　国　249 濰　坊　市　234	

＜備考＞各国選手団人数は視察員・帯同コーチ等を含む
※１　バレーボールは日本（広島）の希望により、第７回競技会から実施。競技数が10競技となった。
※２　開催期日は、３カ国の同意に基づき、第８回競技会から８月23日から29日の７日間で実施。（第１日は到着のみとし、期間を１日延長）
※３　ウエイトリフティングは日本の希望により、第10回競技会から実施。競技数が11競技となった。

宣言しよう、フェアプレイ。

宣言しよう。
全力をつくし、挑戦し、
楽しむことを。

宣言しよう。
仲間を信じ、思いやることを。

宣言しよう。
約束を守り、応援してくれる人への
感謝を忘れないことを。

その誓いは、スポーツを
もっと楽しいものにしてくれる。
日々の生活を
もっとすがすがしいものにしてくれる。

そして多くの人々を活気づけ、
今の日本を元気にするチカラにも
なってくれる。

さあ、あなたも手を胸に。
フェアプレイの誓いを。

フェアプレイで日本を元気に
あくしゅ、あいさつ、ありがとう

「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンで、
フェアプレイの輪を広げ、日本をもっと元気に！

あなたもはじめの一歩を、まずはホームページで。
フェアプレイ宣言 検索

日本体育協会は、スポーツ立国の実現のため、国民体育大会をはじめとする各種スポーツ大会の実施やスポーツ指導者の育成等を行うとともに、スポーツの持つ価値や意義を広くアピールし、国民の生きる力の育成と活力ある社会の構築に貢献していきます。また、日本をもっと元気にしたい。その想いから、「フェアプレイ宣言」推進の取り組みも行っています。

公益財団法人
日本体育協会

わたしたちは、「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを応援しています。

asics 大塚製薬 MIZUNO 三井住友海上 MS&AD INSURANCE GROUP LAWSON LOTTE SUNTORY